



R8. 8.3 令和8年度大甕・太田地区学校適正化検討協議会
(南相馬市教育委員会事務局教育総務課)

資料 4

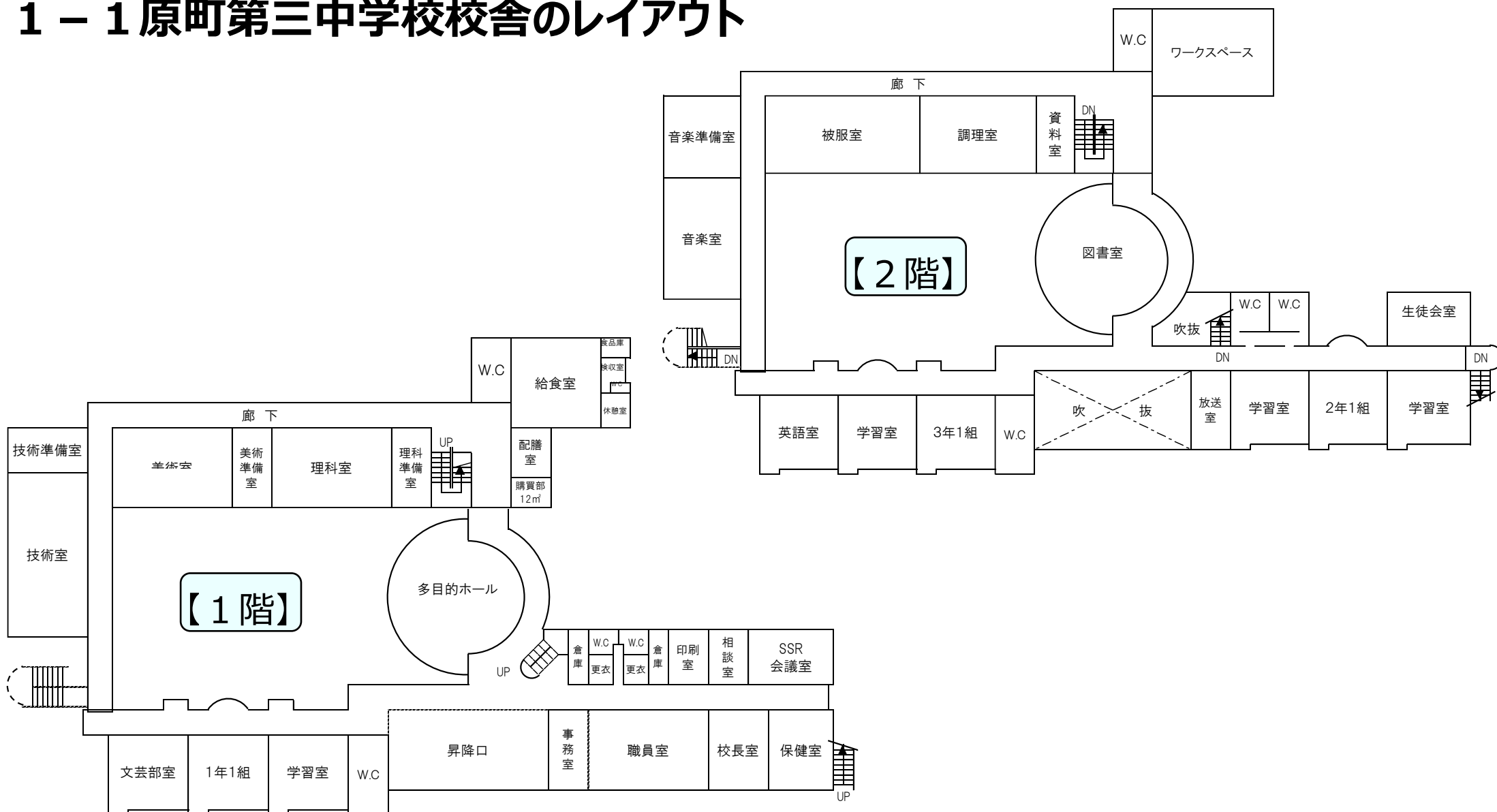
現状の学校施設及び再編後の 施設の使用想定について

南相馬市教育委員会



1. 原町第三中学校校舎等の施設の現状

1 - 1 原町第三中学校校舎のレイアウト





1. 原町第三中学校校舎等の施設の現状

1 - 2 原町第三中学校主要施設概要

【構造について】R C：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造 FRP：繊維強化プラスチック

学校名	敷地面積 (㎡)	建物概要（R7.5.1現在）								
		建物名	構造	階数	面積	建築年月			築年数	耐震性
原三中	34,606	北校舎	R C	2	1,623	H	2	2	36	○
		南校舎	R C	2	2,151	H	2	3	36	○
		体育館	R C	2	1,708	H	12	1	26	○
		プール	FRP	-	25m×13m 6コース	H	7	3	31	-

○築30年以上経過しており、大規模改造工事も未実施。トイレの洋式化は実施済。

○鉄筋コンクリート造の耐用年数は60年。施設の長寿命化改修工事を実施すれば耐用年数は80～100年。

長寿命化改修工事は築年数40年以上が対象であるため、現時点ではトイレ以外の大規模改造工事が可能。

○また防災の観点からは、北側のがけ地を理由として、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されている。

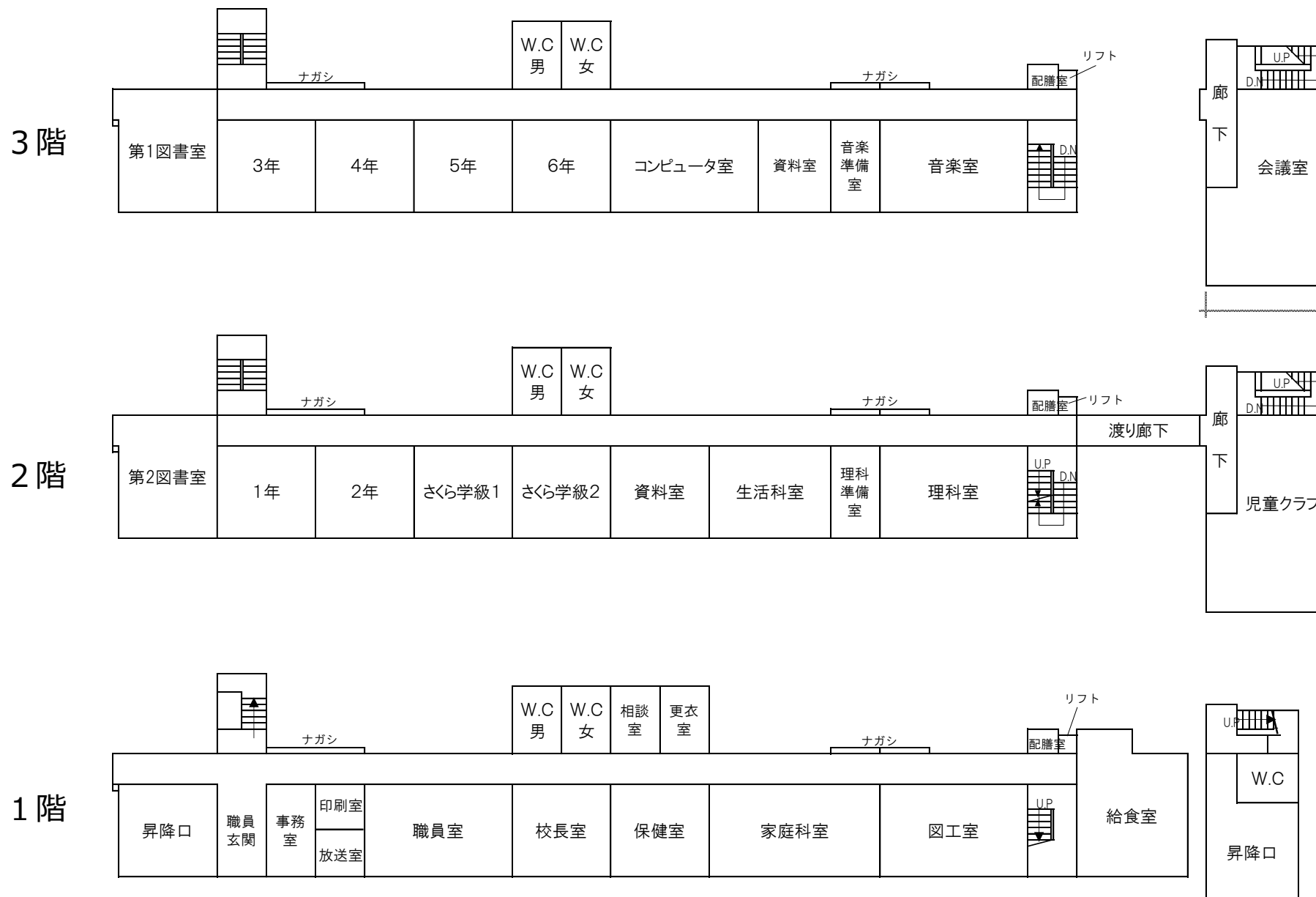
しかし、土砂災害特別警戒区域ではないため、学校運営に制限はなく、増築工事等も可能。

○また大雨等はある程度事前に予測が可能であるため、土砂災害警戒情報等が発令される場合は事前に休校や授業時間の短縮等の予防的措置の対応、急な大雨については、垂直避難が可能であり、安全上の問題は低いと判断。



2.大甕小学校校舎等の施設の現状

2-1 大甕小学校校舎のレイアウト





2.大甕小学校校舎等の施設の現状

2－2大甕小学校主要施設概要

【構造について】R C：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造

学校名	敷地面積 (㎡)	建物概要（Ｒ7.5.1現在）								
		建物名	構造	階数	面積	建築年月			築年数	耐震性
大甕小	19,153	校舎西	ＲＣ	3	1,440	S	50	3	51	○
		校舎東	ＲＣ	3	1,266	S	51	3	50	○
		東校舎	ＲＣ	3	518	S	58	2	43	○
		体育館	ＲＣ	2	1,158	H	15	1	23	○
		プール	FRP	-	25m×13m 6コース	H	7	3	31	-

○校舎は築43～51年。平成26年度から27年度にかけて大規模改造工事（総工費約4億円）を実施済。

○鉄筋コンクリート造の耐用年数は60年。施設の長寿命化改修工事を実施すれば耐用年数は80～100年。

○施設については、一部バリアフリー化がされている。

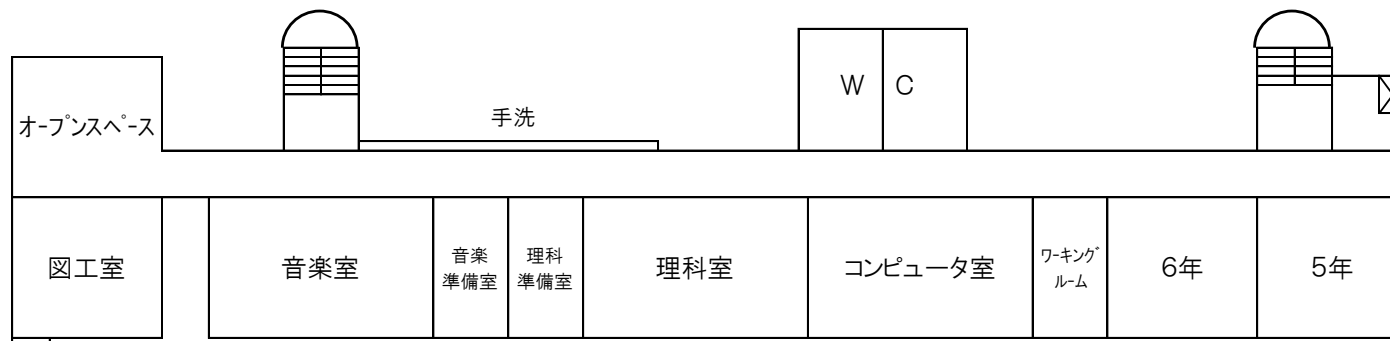
○また、防災の観点からは、津波浸水及び大雨の浸水想定区域外に位置しており、体育館については避難所として指定されている。



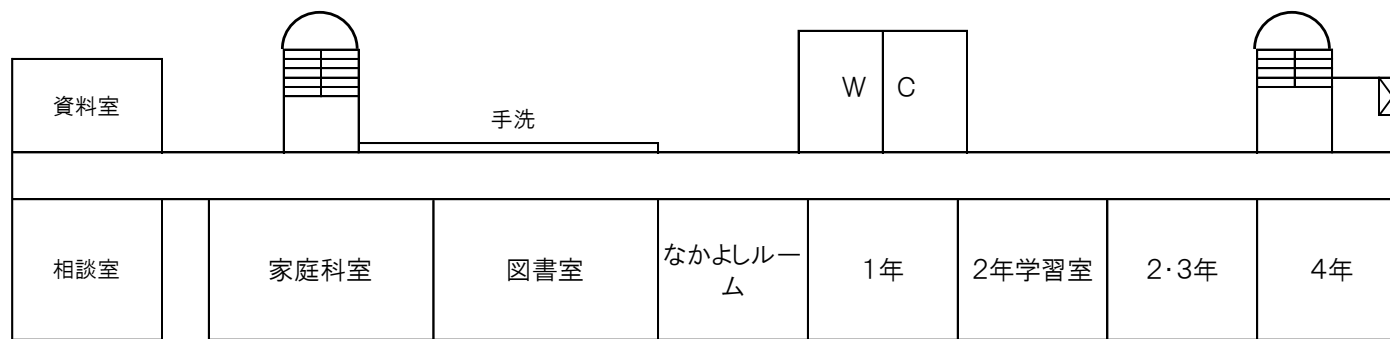
3.太田小学校校舎等の施設の現状

3－1 太田小学校校舎のレイアウト

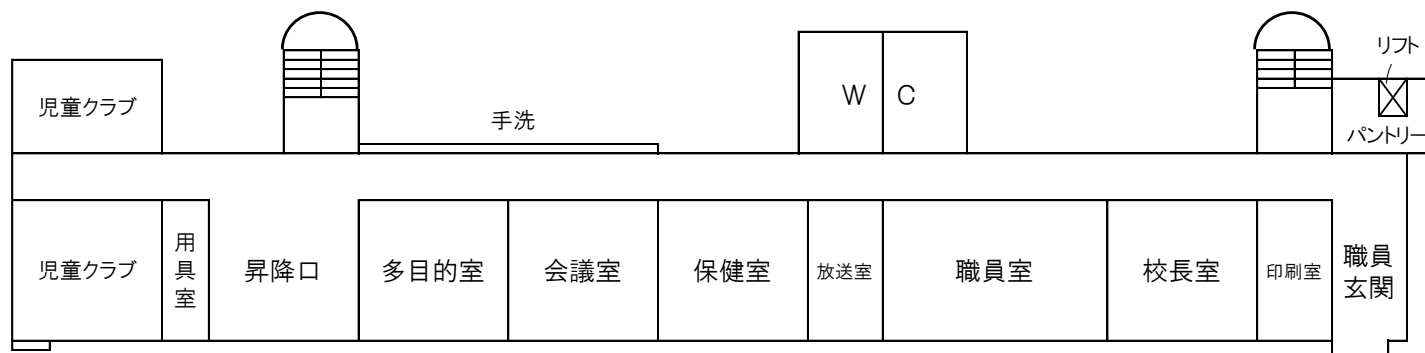
3 階



2 階



1 階





3. 太田小学校校舎等の施設の現状

3-2 太田小学校主要施設概要

【構造について】R C：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造

学校名	敷地面積 (㎡)	建物概要（R 7.5.1現在）								
		建物名	構造	階数	面積	建築年月			築年数	耐震性
太田小	15,730	校舎東	R C	3	1,271	S	56	3	45	○
		校舎西	R C	3	1,044	S	57	3	44	○
		西校舎	R C	3	400	H	5	3	33	○
		体育館	S	1	981	S	59	1	42	○
		プール	FRP	-	25m×13m 6コース	H	6	3	32	-

- 校舎は築33～45年。平成26年度から27年度にかけて大規模改造工事（総工費約4億円）を実施済。
- 鉄筋コンクリート造の耐用年数は60年。施設の長寿命化改修工事を実施すれば耐用年数は80～100年。
- 施設については、一部バリアフリー化がされている。
- また、防災の観点からは、津波浸水及び大雨の浸水想定区域に位置している。



4.施設一体型義務教育学校を設置する際の施設の考え方

- 「建築年数」や「再編時における児童生徒数の見込み」、「校舎の収容能力」、「建設位置」などを総合的に考慮し、**原町第三中学校の校舎を活用**。
- 義務教育学校の開設にあたっては、不足教室分を**増築したうえで、現原町第三中学校の校舎を最大限活用**し、家庭科室などの諸室を前期課程（小学校）・後期課程（中学校）で共用するための改修等必要な整備を行う。
- 校舎以外で必要とされる施設についても、児童クラブや校庭遊具の設置など、具体的なニーズを踏まえ、検討を進める。



4.施設一体型義務教育学校を設置する際の施設の考え方

4-1 施設一体化となった際の際の原町第三中学校校舎の整備イメージ

○下表は、現在の原町第三中学校の校舎で、施設一体型義務教育学校を運営する場合、どのように教室等を確保できるか検討した表。

(職員室や保健室などの管理諸室や放送室や生徒会室などを除く)

○不足する教室分については増築や改修の必要があるほか、校舎全体の大規模改造工事が必要。

○体育館やグラウンドについては、大規模な改修をせずに使用可能。しかし、前期課程用にプールの改修、遊具の移設又は新設を検討。

○なお、本資料は現時点での検討案であり決定ではない。今後、より良い学習環境の実現に向けて検討を進めていく。

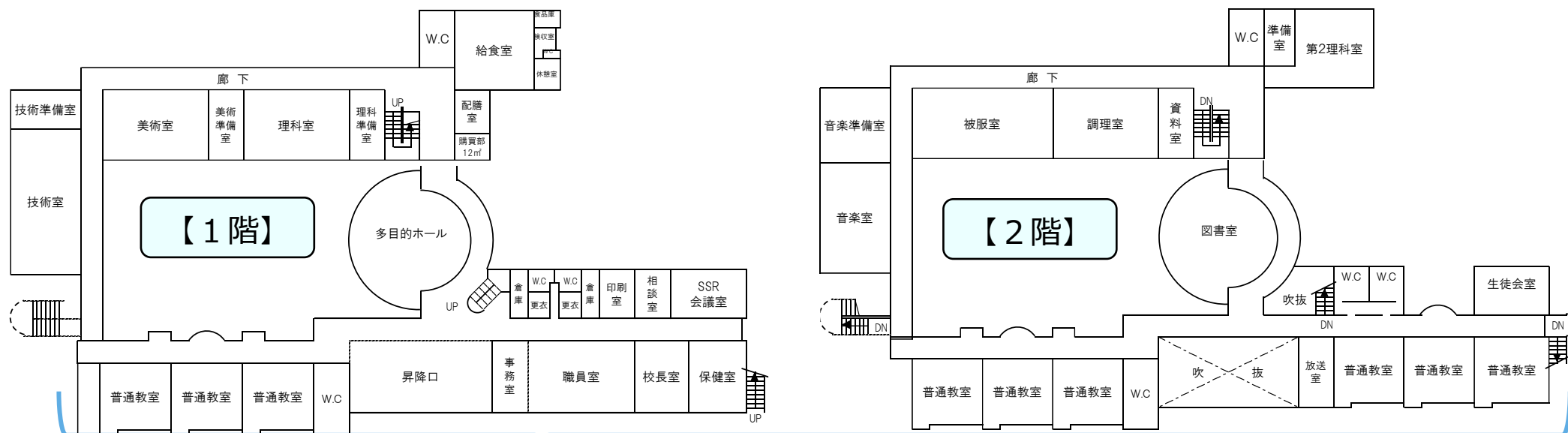
部屋等の種類		現 原町第三中学校	義務教育学校 整備イメージ	増減	整備方法の例	区分		
						共用	前期課程	後期課程
校舎	普通教室	3	13	10	前期課程：6(普)、2(特) 後期課程：3(普)、2(特) ※不足分は増築を検討		増	増
	理科室	1	2	1	不足分は既存教室の改修を検討	○		
	音楽室(準備室含む)	1	1	0		○		
	相談室	1	1	0		○		
	技術室(準備室含む)	1	1	0		○		
	ワークスペース(旧PC教室)	1	0	▲1	第2理科室等へ転用	-		
	美術室(準備室含む)	1	1	0		○		
	被服室・調理室	2	2	0		○		
	図書室	1	1	0		○		
	学習室・英語ルーム	5	1	▲4	普通教室へ転用	-		
	資料室	1	1	0		○		
	文芸部室	1	0	▲1	普通教室へ転用	-		
	小計	19	24	5				
体育館		1	1	0	前期課程でも使用可能	○		
グラウンド等		1	1	0	既存テニスコートの一部を増築校舎敷地として検討	○		
プール		1	1	0	前期課程に配慮した深さに改修が必要	○		



4.施設一体型義務教育学校を設置する際の施設の考え方

4-2 施設一体化となった際の際の原町第三中学校校舎の整備イメージレイアウト

※実際の規模やレイアウトは、これからの協議等を経て、実施設計後に決まります。



大規模改造工事範囲

(外壁・内壁・床・天井・電気・配管・空調リノベーション※トイレを除く)



増築(新築)工事範囲

(普通教室・空調・トイレ等)

事業費概算

※他自治体の工事費を参考に算出

工種	実施年度	事業費	備考
大規模改造	R10～R11	約8.9億円	改修床面積:3,098㎡
増築	R10	約3.0億円	増築床面積:500㎡

※実際の事業費は相当の増減が見込まれます。



5. 学校の位置を原町第三中学校とすることのメリット・デメリットについて

メリット・デメリットの例

メリット

↑ 学校の立地

- ・大甕・太田地区の中心に位置していることで、大甕・太田地区の両地区から通学しやすい。

↑ 大規模改造が実施可能

- ・大規模改造工事が未実施であることから、再編による整備に合わせ、外壁・電気・空調等の大規模改造を実施可能。

デメリット

↓ 通学距離の伸長

- ・一部の児童においては、通学距離が延びることが想定される。

↓ 既存施設の距離の変化

- ・大甕幼稚園と大甕小学校のように、元々隣接していた施設との距離が離れる場合がある。



6. 検討・協議いただきたいことについて

【論点①】

施設については、7Pの「施設一体型義務教育学校を設置する際の施設の考え方」に基づき検討を進めていく形でよろしいか。

■ 施設について検討を進めていく視点に不足はないか？

【論点②】

施設については、7Pの「施設一体型義務教育学校を設置する際の施設の考え方」の記載の具体性で提示していく形でよろしいか。

■ 7Pに記載の方向性の具体性があれば、学校適正化の「大きな方向性（学校種・学校位置の決定）」を判断することが可能か？

※ 7Pの内容で決定するかどうかではなく、7Pに記載されている内容の他に、検討が必要なものはないか、保護者への提示にあたっては、記載されている具体性で問題ないか、という視点で協議いただきたいと存じます。



7.【参考】学校適正化時の大甕・太田地区の児童生徒数推計について

【参考】学校適正化時の学校規模（令和12年4月開校の場合）

(1)大甕小学校、太田小学校、原町第三中学校の再編

大甕小＋太田小＋原三中

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数	19	19	22	18	21	21	17	29	22	188
学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9

※児童・生徒数推計は特別支援学級の人数を含むが、学級数推計は特別支援学級を含まない。